

## 気候変動への対応

### TCFDによる提言に賛同署名

味の素グループは、気候変動を全社経営レベルのリスクかつ機会として捉えており、経営会議の下部機構である経営リスク委員会と環境会議で各種指標の目標達成度を確認するとともに、対応策を検討しています。

2019年5月には、金融安定理事会\*1が立ち上げたTCFD\*2(気候関連財務情報開示タスクフォース)による提言に賛同署名しました。今後は、国際的な枠組みに沿うようにガバナンス体制を強化し、気候関連のリスクと機会を事業戦略へ反映していきます。

\*1 世界主要国・地域の中央銀行、金融監督当局、財務省等の代表が参加する国際機関

\*2 Task Force on Climate-related Financial Disclosures

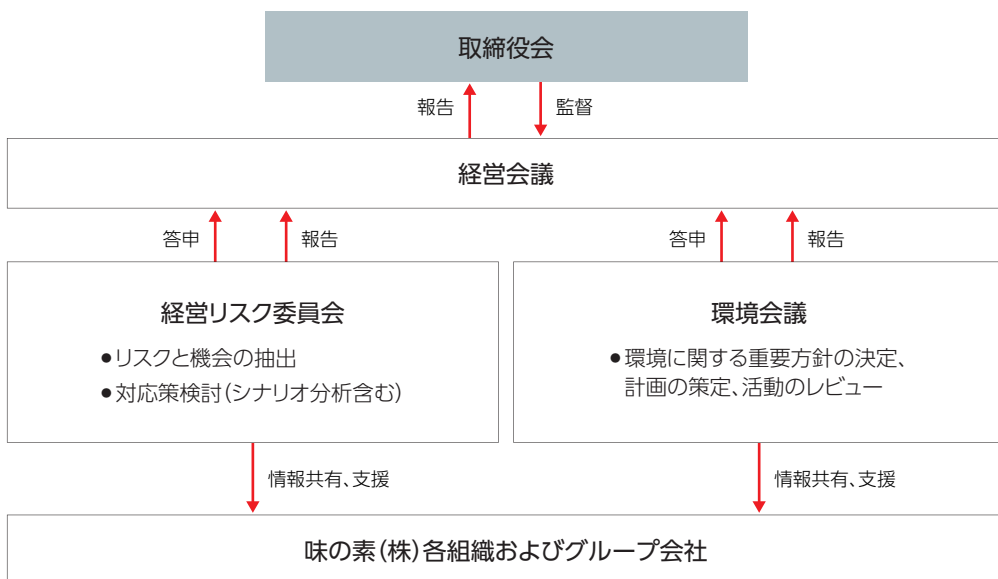
### 東南アジアを対象にシナリオ分析を実施

味の素グループの事業領域は、調味料、冷凍食品、コーヒー等の食品から、ライフサポート、ヘルスケアまで、多岐にわたっています。また、その活動地域は全世界に広がっています。そのため気候変動による影響も、大きな自然災害による事業活動の停滞、原燃料の調達に関わる事項、消費行動に関わる事項等、多方面にわたると考えられます。

2018年度は、味の素グループの主力製品の一つであるうま味調味料[味の素®]をモデルとして、東南アジアを対象に気候変動のシナリオ分析を実施しました。その結果、平均気温が2℃上昇した場合、主原料への影響や需要の変化は比較的小さく、利益への影響は大きくないことが認識できました。しかし、エネルギー単価増や低炭素社会の進行に伴う炭素税増等が利益を圧迫する可能性があることがわかりました。そのため、現在も取り組んでいる再生可能エネルギーへの切り替え等をさらに進め、レジリエンスを高めていく必要があります。

2019年度は、「味の素®」のシナリオ分析をグローバルに展開するほか、他の調味料や食品のシナリオ分析も実施する予定です。

### 気候変動に関するガバナンス体制



▶ 詳細は「サステナビリティデータブック2019」をご覧ください。  
<https://www.ajinomoto.com/jp/activity/>